

## 明治大学国際交流基金事業 研究者交流支援制度 報告書

農学部 生命科学科  
動物再生システム学研究室  
教授 乾 雅史

招聘研究者 Dr. Kim Minchul  
所属機関 Institute of Genetics, Molecular and Cellular Biology (IGBMC)  
招聘期間 2025 年 12 月 1 日 ～ 12 月 10 日 (10 日間)

2025 年 12 月 1 日から 12 月 10 日まで、明治大学国際交流基金事業「研究者交流支援制度」により、フランス・ストラスブルグの Institute of Genetics, Molecular and Cellular Biology (IGBMC) のグループリーダーである Kim Minchul 博士を招聘した。Kim 博士は骨格筋分野の気鋭の若手研究者であり、骨格筋と腱の境界部を対象とした研究においてホスト教員・乾と相互に補完的な研究を展開している。2020 年に世界に先駆けて骨格筋組織のシングル核 RNA sequence 解析を発表し、分野に大きなインパクトを与え、2022 年に独立したグループリーダーとなって以降も活発に研究の幅を広げている。

Kim 博士の滞在中には研究室メンバーとのディスカッション、公開講演会、分子生物学会における発表や議論などを実施した。研究室メンバーとのディスカッションでは未公開データを含む互いの最新の研究結果を共有し、研究室の大学院生の研究についても多くのアドバイスをいただいた。Kim 博士の国際的なキャリアパスについてもお話を伺うことができ、大学院生にとって将来を考えるための貴重な機会となった。

公開講演会は 12 月 2 日の 16:00-17:40 に生田キャンパス第一校舎 6 号館 6-204 教室にて「Myonuclear heterogeneity in health and disease」と題して骨格筋生物学の基礎から最新の研究結果まで幅広く講演いただいた。学外からの聴講者も含め、約 20 人が参加し、講演後には活発な質疑応答がなされた。セミナー後には懇親会を開催し、研究室の学部学生とも交流の機会を設けることができた。



講演会（左）および懇親会（右）の様子

12月3-5日には分子生物学会に参加し、ホスト教員の主催したシンポジウムに参加・議論していただいた。また、Kim 博士とともに来日した3名の大学院生・博士研究員のポスター発表においてもさらに議論を深めることができた。また、滞在の後半では学外の共同研究者を交えたディスカッションも行い、Kim 博士と多くの日本の研究者の意見交換の機会を提供することができた。



分子生物学会シンポジウム後の記念撮影。Kim 博士を含め国際的な参加者も多く見られた。

上記のように、滞在期間中には研究室学生や学外研究者を含め多くの議論や交流の機会を設けることができ、長期間の招聘により余裕を持ったスケジュールで共に時間を過ごすことの大きな意義が感じられた。今回の招聘をきっかけとし、Kim 博士との間で、また日本とフランスの骨格筋分野の研究者の間で継続した共同研究・人材交流が進むと期待される。